

「生命（いのち）の安全教育」実践事例

活動名	町の助産師による性教育		
学校名	湯河原町立湯河原中学校		
学年	第 2 学年	人数	151 人
日時	令和 6 年 7 月 11 日（ 木 ） 2 時間枠		
取扱いの分類	道徳		
講師	湯河原町保健センター 助産師 2 名		
学習のねらい	・かけがえのない命の大切さを知る。 ・自分の気持ち、他人の気持ち、どちらも大切にすることができる。 ・交際で対等な関係を築き、嫌なことを断れる。 ・性についての相談先を知ることができる。 ・適切な避妊方法を学び思いもよらない妊娠を避けることができる。		
内容	（導入 5 分） ・助産師の自己紹介 ・助産師の働く場所 ・助産師になるには （展開 前半 40 分） ・生殖機能について復習し理解することができる。 ・胎児の心音や産声を聴き、新生児人形を抱っこしてみることで、赤ちゃんを身近に感じることができる。 ・「生きる力」を持ち備えて生まれたきたことを知ることができる。 ・10 代の妊娠出産によるリスクを知ることができる。 （休憩）10 分 （展開 後半 30 分） ・健康的な人間関係、性暴力、避妊について知ることができる。 ・性の悩みについての相談先を知ることができる。 ・性感染症の予防について知ることができる。 ・性の多様性について知ることができる。 （まとめ 15 分） ・振り返り（感想用紙記入）		

成果 (児童・生徒、教 職員の感想等)	スライドを見ながら助産師の専門性や経験に基づいた話を聞くとともに、新生児人形を抱っこしたり、胎児心音と自分の脈を比べてみるなどの体験をしたりすることで、性について自分事ととらえ、考えることができた。
課題	男女が一緒に教室で授業を受けることで、男女共生の意識の高まりもあるが、はずかしさを感じてしまう生徒もいた。
学校全体での 取組や工夫 (予定も可)	SOS の出し方、受け方講座や人権教育講演会、薬物乱用防止教室等、生徒が命の大切さの意識を高める活動を行っている。